

# 新住園島

令和6年度【第1号】  
2024年4月1日発行  
八頭町役場商工観光室  
(0858-72-0144)

—八頭町地域おこし協力隊活動の現場から—

## 能登半島災害支援活動

今年の1月に発生した能登半島地震は、各地域に大きな被害をもたらしました。厳しい自然環境に育まれた地域での大災害は、再生と復興が喫緊の課題となっています。

2月。船岡地域の農家さん総勢10名で2泊3日の支援活動に行かれるということで、高齢者や農家さんとの交流を通じて、少しでも力になればという気持ちから同行させていただきました。70キロ以上30臼の餅づくりでは、地域の女性8名と一緒に餅作りを手伝ってくださり、結束と助け合いの精神が感じられる本当に貴重な時間でした。また、帰宅後にはご近所の方々が、無事の帰宅と労いの温かい言葉をかけてくださり、言葉に尽くせない感謝の気持ちがいっぱいでした。

能登半島の地震災害支援はまだ続いており、被災地の皆様が早く安心して日常生活を取り戻せるよう、これからも支援活動が継続されることを切に

願っています。被災地の皆様の日も早い復興を、心よりお祈り申し上げます。

真柳加奈子

珠洲市正院地区



お正月はお餅も食べれなかったのが喜びのお声もいただきました！

## りんごの剪定

昨年からの観光園でりんごの作業をお手伝いさせていたただいていますが、年明けからりんごの木の新剪定が始まりました。剪定は今秋のりんごの味が決まる大事な作業です。枝はたくさん切ればいいわけではありません。光の当たり方や枝の方向など考えることが沢山あります。また、側枝から徒長枝が伸びたり、成り枝から伸びる長果枝などに葉っぱの葉芽や実がなる花芽がでてきます。元気な木は花芽がふくらんでいて、実が美味しくなるそうです。ただ、弱っている木はとてに弱ってしまうのです。

空にまっすぐ伸びる枝の中で一番上の徒長枝は栄養を吸い上げてくれる大事な枝です。例えるならオーケストラの指揮者のようです。この枝がないと栄養の吸い上げがうまくいかず全体の枝の調和がとれません。

剪定は全身を使うので大変です。鍼灸師の僕としては負担のかからない体の使い方を考えながら作業し、鍼灸施術にも活かせるようにしていきます。

岡田悠作

剪定作業中



桃の節句といえば、

どんな貝を食べますか？

3月3日の桃の節句。全国的にはハマグリのお吸い物を食べるらしいです。とはいえ、日本各地にそれぞれ特有の食文化がありました。私の地元、筑後川流域では昔は桃の節句はタニシを食べるものだったそうです。

八頭町に移住して、様々な郷土資料を調べてみると、鳥取県東部もタニシを食べると書いてありました。筑後と因幡、こんなに離れていても同じ食文化が親しまれていたことには驚きでした。しかも、タニシはちゃんと美味しいんです。とくに美味しいのはオオタニシ。ため池などに棲む6cmを越える大きなタニシです。筑後川周辺では外来のスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）だらけになってしまっただけで消えてしまった食文化ですが、今年にはタニシのねぎぬたを頂き、水辺の食文化に思いをはせてみました。

小宮春平



オオタニシのねぎぬた



八頭町のため池にはマルタニシが多い。これも美味しい。



東部に棲む様々な淡水二枚貝



Instagram  
yazu\_life  
更新中

○担当課より

・新年度を迎え、隊員それぞれも新たな目標に向かってスタートしています。地域の皆様にさらなるご協力をいただくとともに、担当課としてもしっかりとバックアップしていきたいと思ひます。（一同）

○協力隊からのお知らせ

・インスタグラム【 yazu\_life 】で八頭の魅力を発信しています！（QRコード）。

八頭町役場ホームページからカラーでご覧いただけます。